

## (5) ストック

### 主要病害虫別防除方法

| 病害虫名<br>(病原体)                    | 農薬によらない防除  | 農薬による防除  |
|----------------------------------|--|--|
| モザイク病<br>(TuMV, CMV)<br>(アブラムシ類) | ①被害苗や株は直ちに引き取り、適切に処分する。<br>②育苗期には目合い1mm以下の防虫ネットなどにより、アブラムシ類の飛来を防ぐ。                                 | ①ウイルスを媒介するアブラムシ類を農薬で防除する。<br>(例)<br>アセタミプリド水溶液、くん煙剤(モスピラン顆粒水溶液(花き類・観葉植物(ストック、りんどうを除く))、モスピランジェット(花き類・観葉植物(トルコギキョウを除く)))<br>イミダクロプリド水和剤(アドマイヤーフロアブル)(花き類・観葉植物(きくを除く))<br>ピメトロジン水和剤(チェス顆粒水和剤)(花き類・観葉植物)<br>ピリフルキナゾン水和剤(コルト顆粒水和剤)(花き類・観葉植物(チュリッパを除く))     |
|                                  | 【参考事項】<br>アカザ科、アブラナ科、キク科、マメ科植物にも発生し、アブラムシ類により伝染する。   |  |
| 菌核病<br>(Sclerotinia)             | ①過繁茂にならないようにするとともに、通風、換気、排水を良くし、過湿を避ける。<br>②発病株は早めに抜き取り、適切に処分する。                                   | ①発病初期から農薬を散布する。<br>(例)<br>イミノクタジン酢酸塩・ポリオキシシン水和剤(ポリベリン水和剤)<br>チオファネートメチル水和剤(トップジンMゾル、トップジンM水和剤(花き類・観葉植物(トルコギキョウを除く)))   |
|                                  | 【参考事項】<br>被害株にできた菌核が落ちて伝染源になる。菌核は、土壌中で2～3年生存する。キャベツ、ナス、レタスなど、各種作物を侵す。発病の適温は15～20℃である。              |  |
| 炭疽病<br>(Colletotrichum)          | ①発病ほ場の残さはほ場から持ち出し、適切に処分する。<br>②頭上からの灌水を避ける。  | ①発病初期から農薬を散布する。<br>(例)<br>チラウム水和剤(チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル)  |
|                                  | 【参考事項】<br>被害茎葉上に形成された胞子が雨滴や灌水の飛沫で伝染する。発病の適温は20～30℃である。   |  |
| コナガ                              | ①育苗期から目合い1mm以下の防虫ネットで被覆する。<br>②周辺のアブラナ科野菜での発生に注意する。<br>③ほ場周辺の除草を行う。                                | ①定植時に粒剤を全面土壌混和又は株元散布する。<br>(例)<br>カルボスルファン粒剤(ガゼット粒剤)<br>ベンフラカルブ粒剤(オンコル粒剤5)<br>②発生初期から農薬を散布する。<br>(例)<br>エマメクチン安息香酸塩乳剤(アフファーム乳剤)<br>クロルフェナピル水和剤(コテツフロアブル)<br>レピメクチン乳剤(アニキ乳剤)<br>③微生物農薬を利用する(微生物農薬の項参照)。<br>(例)<br>BT水和剤(エスマルクDF(花き類・観葉植物)、ゼンターリ顆粒水和剤など) |
|                                  | 【参考事項】<br>特に秋の幼虫の被害に注意する。<br>散布剤は葉裏にも薬液を十分散布する。<br>抵抗性系統を発生させるおそれがあるので、同一系統農薬の連用は避け、ローテーション防除に努める。 |  |